



4. アンテナ施工方法

4. アンテナ施工法

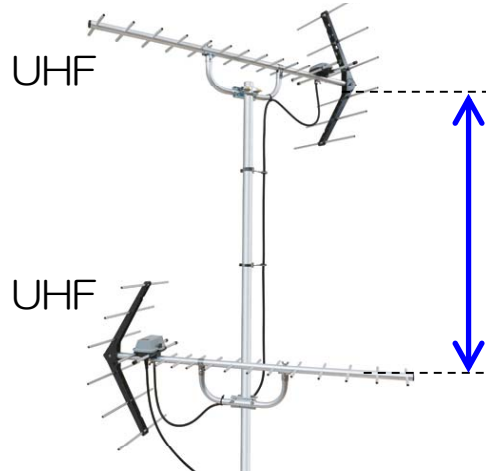
アンテナ設置の手順

1. アンテナの組み立て
必ず地上で組み立てを行ないます。
2. アンテナに同軸ケーブルを接続
接続コネクタにテンションがかからないように固定する。 ⇒ 別途記載
3. 屋根馬の設置
屋根の形状に合わせた屋根馬を選択
4. マストとアンテナを屋根馬に設置
アンテナ方向調整のため、屋根馬のマスト固定ボルトは締めすぎない。
アンテナを2本設置する場合は、アンテナ相互間の距離に注意。 ⇒ 別途記載
5. 支線を張る
支線は4方向にとる。 ⇒ 別途記載
支線の張りはあまり強く張らないようにします。 ⇒ 別途記載
6. アンテナの方向調整
屋根馬のマスト固定用ボルトを緩め方向調整。
方向のみでなく、高さ調整も必要。
7. 同軸ケーブルの処理
屋根やアンテナマストに直接同軸ケーブルが触れないようにします。 ⇒ 別途記載
8. 完了

4. アンテナ施工法

施工上での注意点(1) アンテナ相互間の離隔距離

水平偏波のアンテナを上下に設置する場合

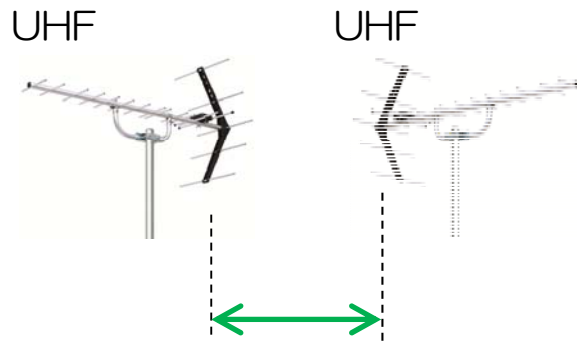


UHF⇔UHFなら60cm程度離す

上下アンテナ間で干渉がない距離

UHF ⇔ UHF	: 60cm 以上
UHF ⇔ FM	: 60cm 以上
FM ⇔ FM	: 150cm 以上
UHF ⇔ BS	: 60cm以上でBSに影響のない距離

水平偏波のアンテナを水平に設置する場合



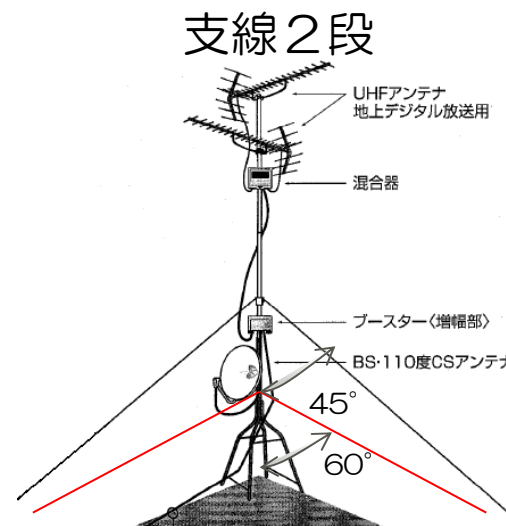
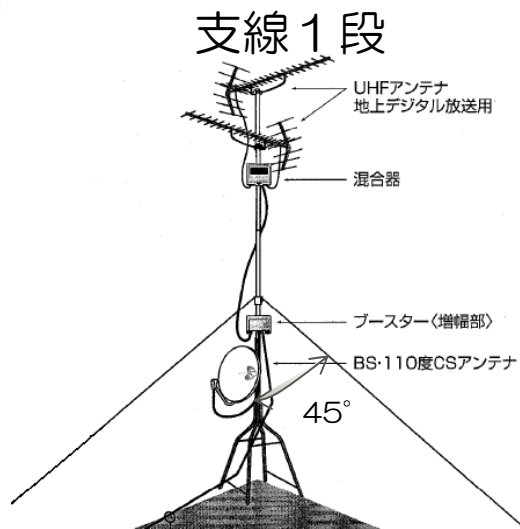
UHF ⇔ UHF	: 60cm 以上
UHF ⇔ FM	: 180cm 以上
FM ⇔ FM	: 225cm 以上
UHF ⇔ BS	: 60cm以上でBSに影響のない距離

UHF⇔UHFなら60cm程度離す

4. アンテナ施工法

施工上での注意点(2) 支線を張る上での注意点

(1) 支線の張り方



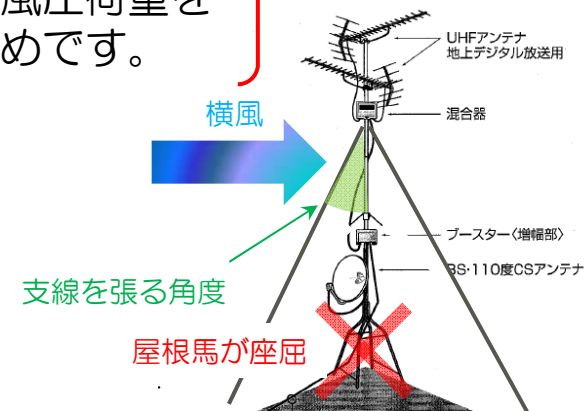
支線を取る位置は、どこが良いか。

1ヶ所の場合：アンテナに近い位置

2ヶ所の場合：アンテナに近い位置とマストの中央

アンテナに近い位置に支線を取るのは、アンテナの風圧荷重を支線で吸収し、アンテナマストに負荷をかけないためです。

支線の張る角度を鋭角にしない。
横風の力に弱くなります。
また、垂直方向の荷重が増え、
屋根馬が座屈する恐れがあります。

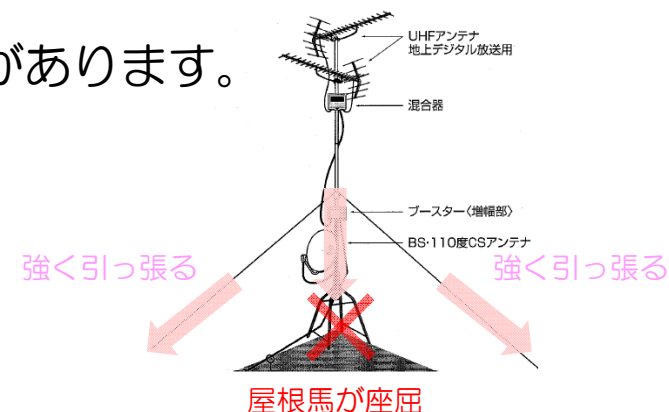


4. アンテナ施工法

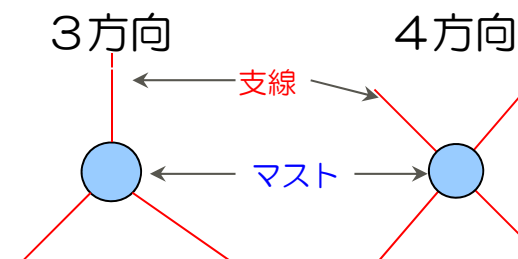
施工上での注意点(2) 支線を張る上での注意点

(1) 支線の張り方

支線をあまり張り過ぎない。
垂直方向の荷重が増え、屋根馬が座屈する恐れがあります。



(2) 支線は3方向でも4方向でも効果は同じです。
風向きが変化することがあっても、
支線1本にかかる最大応力は同じ。



4. アンテナ施工法

施工上での注意点(3) 同軸ケーブルの処理について

同軸ケーブルの処理

• アンテナ近くで同軸ケーブルを固定

アンテナ給電部に接続したコネクタに風による風圧や同軸ケーブルが自身の重さにより引っ張られないようにアンテナの近くでマストにインシュレーターを使用して固定する。

(最悪の場合、同軸ケーブルが抜けます)

• 屋根上にごろがり配線はしない

屋根上にごろがり配線をするとう風などで同軸ケーブルが動き、屋根にこすれて同軸ケーブルの劣化につながります。屋根上のみでなく、壁面なども同様に同軸ケーブルを処理をします。特に屋外部分は必須です。

(同軸ケーブルが劣化すると受信障害になります)

ブースターの取り付け位置

- ブースターはアンテナマストの手が届く位置に設置
ブースターの取り付け位置は、アンテナから離れた位置では放送波の信号品質が悪くなりますので、なるべくアンテナに近い位置が最適です。特別な事情がなければ、アンテナマストの手が届く位置に設置します。
(ブースター的能力が一番活かせる位置です)

